

I 実践

1 研究主題

「一人一人が人権尊重の自覚をもち、認め合い、助け合う子どもの育成」

(1) 主題設定の理由

本校の教育目標は、『豊かな心 強いからだ 考える力』を持ち、未来を切り拓く実践人の育成であり、目指す児童像は、「考える力を持つ子」「豊かな心を持つ子」「強いからだを持つ子」である。これらを受け、本校の人権教育の目標を「好ましい人間関係をつくり、誰に対してもわけへだてしない子どもを育てる」としている。そのため、「誰に対しても公正公平」「互いに助け合う」「進んで働く」「自分のよさを見つけ、自分を大切にすること」という4点を、達成するための視点として掲げている。本校の児童は、落ち着いた学校生活を送ることができているように思われる。しかし、生徒指導部が行っている学校生活調べでは、数名ではあるが「今いじめられている」「からかわれている」という回答が出ているという実態がある。

「いじめられている」と感じたり、訴えたりしている児童が、安心して楽しく生活できることが大切である。そこで、「会瀬あいうえお」の決まりを守り、お互いを大切にするこゝのできる児童の育成を目指し、本主題を設定した。

(2) 研究内容

- ア 人権を尊重する人間関係づくり
- イ 人権を尊重する学習活動の推進
- ウ 人権を尊重する環境づくり

2 実践内容

(1) 人権を尊重する人間関係づくり

- ア 縦割り班活動による異学年交流



「縦割り班活動」



「スマイルプロジェクト」

各クラスを9班に分けて縦割り班を作り、年間計画のもと、毎月1回異学年集団で交流を行っている。決められた活動場所でみんなが楽しく安全に活動できるように、6年生のリーダーを中心に、高学年生が真剣に話し合いを行っている。活動の後に、班毎に振り返りを行い、さらに高学年生で反省を話し合うことで、次の活動がよりよいものとなるように進めている。活動を通して、下級生を思いやったり、上級生の姿を見て倣ったりする態度を育てるよい機会となっている。

- イ 高学年による「スマイルプロジェクト」

6年生が最高学年として、会瀬小を「明るく、楽しく、きれいな学校にしたい。みんながスマイルになる学校にしたい。」という思いから生まれたプロジェクトである。自分たちが進んで継続的にできることを考え、「あいさつ運動」や「清掃」、「なかよし」を柱に「会瀬スマイルプロジェクト」として活動している。さらに、感染症予防のために何ができるか話し合い、呼びかけを行う活動にも取り組んでいる。朝登校してすぐにあいさつ運動に取り組んだり、低学年の清掃を手伝ったりして学校のために働く姿は、他学年の児童にも感謝の気持ちが伝わっている。他学年の児童も一緒に参加し、優しさや友達を気遣う心の育成につながった。

(2) 人権を尊重する学習活動の推進

ア いのちの教育（4年生）

養護教諭が中心になって、生命の神秘やいのちの尊さについての授業を行った。命の大切さや親の願い、誕生した時の周囲の喜びなどを知り、自尊意識を高めるとともに、自分や自分以外のまわりの人を大切にしようとする心を育てる機会となった。



「いのちの教育」

イ ハッピースマイル大作戦

6年生の「スマイルプロジェクト」を受けて、もっと学校が楽しくなるようにいじめゼロを目指そうと、特活部を中心に「ハッピースマイル大作戦」という集会を実施した。各学級で「笑顔を増やすスローガン」を発表したり、一人一人がいじめを生まないために取り組むことを書いたメッセージを、学級ごとに掲示したりした。掲示物は、全校児童が利用する廊下の壁や各教室に掲示している。立ち止まって一つ一つのメッセージを読んでいる姿が多く見られる。いじめを生まないために、自分ができることを考える機会をつくることができた。



「ハッピースマイル大作戦」

(3) 人権が尊重される環境づくり

ア ハートいっぱいけやきの木

全校児童が利用する階段わきのスペースに、「ハートいっぱいけやきの木」を作り、授業や学級の問題、行事などを通して、児童が感じ取った気持ちをミニメッセージとして掲示していった。また、教師からの励ましのメッセージも掲示し、温かい気持ちを発信している。季節が感じられる掲示物も、児童にとって心を落ち着かせることのできる場となっている。

イ 「人権メッセージ」の取り組み

「ハッピースマイル大作戦」を通して、生活する中で必要な言動などについてメッセージを書いて掲示し、人権に対する意識を高めることができた。

3 成果

(1) 学校生活全体を通して、上級生が自然に下級生に心くばりをし、下級生は上級生を手本とする態度が育ってきた。心のふれあいが学校に元気と温かい雰囲気を作り出している。

(2) 教育活動全体を通して、児童の中で自他を認め、尊重する態度が養われてきている。継続したり繰り返し学習したりすることで人権尊重の意識が深まっている。

II 今後の課題

教職員の人権意識の向上も不可欠であるので、校内研修などをさらに充実させ、継続的に人権感覚の涵養を図りたい。子どもたちに芽生えてきた自他ともに大切にする気持ちをさらに育てていきたい。

III 人権コーナーの設置の様子



いじめゼロのスローガン



一人一人のメッセージ



ハートいっぱいけやきの木

